地域再生計画

１　地域再生計画の名称
　人と人とのつながりによる福祉とツーリズムの推進計画

２　地域再生計画の作成主体の名称
　熊本県阿蘇郡小国町

３　地域再生計画の区域
　熊本県阿蘇郡小国町の全域

４　地域再生計画の目標

　熊本県小国町は県の最北端、九州のほぼ中央に位置し、夏は涼しく冬は厳しい高冷地帯である。また雨も多く年間雨量は２３００mm.を越える。こうした気候条件は森林の育成に適しており、古くから林業の町、杉の町として栄えてきた。
　しかし、昭和の終わりから見え始めた林業の低迷は今日に至るまで続き、町の経済に大きな影響を与えている。町の主産業の低迷は、若者の就業を困難なものにし、人口の流出に繋がっている。こうした状況は全国的に進む少子高齢化の流れの中、小国町においても高齢化に拍車をかけ、昭和３０年代半ばには１万６千人台だった人口は平成１８年現在９千人ほどに減少し、高齢化率もついに３０％を越えている。
　このような深刻な高齢化社会は、それまで町を、地域を支えてきた「地域コミュニティ」の崩壊へと繋がっている。共助の精神のもとその機能を果たしてきた地域コミュニティだが、高齢化した社会のなか、既存のシステムではその機能を果たせず、「新たな人と人との繋がり」による新たなコミュニティの形成が必要になってきている。
　一方、高冷地帯という特性を活かし、大根やホウレン草といった高冷地野菜、椎茸、稲作を主要作物としてきた小国町の農業だが、安価な外国産野菜との価格競争などから、中山間地域における農業は、「生産」を目的とした従来どおりの農業の在り方ではその存続が難しい状況にある。
　小国町ではこの課題に対し、早くから「グリーンツーリズム」の思想を取り入れ、その振興に務めてきた。その象徴となる取り組みが１９９７年に始まった「九州ツーリズム大学」である。ツーリズムの思想と実践を学ぶと共に、ツ

ーリズムに関わる人材のネットワーク形成を目的として開校された九州ツーリズム大学も既に９期生まで卒業し、全国に広がる卒業生は述べ１，１００人を越えている。

現在町では、グリーンツーリズムの思想から始まったこの取り組みを、農業という枠にとらわれることなく、「人と人との繋がり・交流」というキーワードを軸に置き、農業、商業、工業といった様々な分野、業種が関与する「小国流ツーリズム」として捉え活動を続けている。

今回の計画では、「人と人との繋がり」をキーワードとし２つの課題（１．新たなコミュニティの形成、２．ツーリズムの推進）に対し、「地域通貨」という手法を用いて、それぞれの課題解決を目指すとともに、この地域通貨を通じて２つの課題を関連付けていくことにより、双方の取り組みをより一層展開、発展させていくことを目標としている。

（具体的な目標）

１．交流人口の増加

・九州ツーリズム大学受講生　町内５０人　（５年間の述べ人数）
　　町外１００人（５年間の述べ人数）

※九州ツーリズム大学の受講者数のうち、多くは町外からの参加者が占めているが、今回の計画を進めることにより、様々な分野の住民にツーリズム事業に関わる機会をつくり出し、町内からのツーリズム大学受講者数を増加させることが期待できる。

・体験教育受入　　受入家庭１００戸（Ｈ１７年度５０戸）（５年後の数値）
　　受入学校数　　７校（Ｈ１７年度３校）（５年後の数値）

・民泊利用者数８００人（Ｈ１７年度は約５００人）（５年後の年間数値）

２．ボランティア参加人口の増加

・ボランティアサークルへの加入者数　町内４００人（５年後の数値）
　　町外２００人（５年後の数値）

※この計画により、ツーリズム関係のネットワークにまでボランティア活動への協力を呼びかけることが出来るようになり、町外のボランティア参加者を増加させることが期待できる。

５　目標を達成するために行う事業

５－１　全体の概要

地域通貨を活用しての人と人との繋がりを生み出すことを目的とする本計画では、この地域通貨の流通、一般化が最重要課題である。そのために、この地域通貨のサイクルを生み出す歯車をいかに多く作り出すかという目標にむけ各

事業を行っていく。具体的には、１．地域通貨の使用できる施設、店舗の拡大、２．魅力ある農林業・自然体験プログラムの都市住民への提供　３．九州ツーリズム大学、自然学校、体験学習受入等の事業へ地域通貨を導入する、といった事が挙げられる。

これまで福祉に特化したかたちで活動を続けてきたＮＰＯ団体と、ツーリズムを推進してきた町とが、地域通貨を通して協力していくことにより、新しい人と人とのつながりをつくり出し、福祉とツーリズムの推進を図る。

５－２　法第４章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

５－３　その他の事業

５－３－１　地域再生基本方針に基づく支援措置による取り組み

○地域再生に資するＮＰＯ等の活動支援（内閣府）：Ｃ２００１
市民活動団体等支援総合事業（ネットワーク形成促進事業）

これまでボランティア育成、地域通貨の導入に取り組んできたＮＰＯ団体、「杉っ子運営会」が主体となり、「人と人との繋がり」をつくり出す以下の事業を実施する。

（１）ボランティアの登録・養成
地域通貨杉っ子運営会のサポート会員を募り、ボランティアとして登録、機関紙「杉っ子つうしん」の発行や町内６箇所に設置したボランティア情報交換板を通じて、ボランティアに関する情報交換を行う。また、小国町社会福祉協議会との共催でボランティア養成講座を行う。

（２）社会参加支援
高齢者や障害者の社会参加のため、「ふくし夏まつり」や「人権同和問題啓発フェスティバル」に協賛して、イベントに高齢者や障害者を招待、地域通貨を無料で配布する。また、悠工房（高齢者等活動支援促進施設）や小国学園などの福祉関係施設と連携し、作業所での作品製作や活動体験の機会を設けて、社会参加を支援する。

（３）介護予防ネットワークの構築
「小国町地域福祉ネットワーク会議」を通して、町立小国中学校の協力を得て、中学生の目を通して地域福祉を見直し、福祉サービスやボランティアにつなげる介護予防ネットワークを構築する。

（４）都市住民との交流支援
農業体験型ワーキングホリデイ（グリーンツーリズム）により、都

市住民と地域住民との交流を支援する。具体的には、都市住民が農業体験を通して地域に貢献し、その対価として地域通貨と宿泊体験できる権利を獲得、地域通貨で宿泊できる集会所を利用して、実費負担で食事の提供や浴場の利用を行う仕組みを構築する。
　また、宿泊の為に必要な寝具や暖房冷房器具などを貸し出す仕組みを構築する。

（５）ツーリズム推進に向けた人材育成
　小国町にある大字６区域（宮原・黒淵・下城・西里・北里・上田）から各１名に対して、九州ツーリズム大学の入学金などの助成を行い、グリーンツーリズムを推進するリーダーとして育成する。受講後は、このリーダーを中心として、各地区の住民を集めてグリーンツーリズムの普及に関する懇談会などを実施する。

５－３－２　支援措置によらない独自の取り組み

（１）九州ツーリズム大学
　小国町におけるツーリズム推進のシンボル事業として取り組んできた「九州ツーリズム大学」を今後も継続して取り組んでいくことにより、ツーリズムの更なる発展と、このネットワークを活用した、本計画の達成を目指す。

（２）うるるん体験教育
　農山村における新たな産業づくりと、ツーリズムの間口を広げることを目的として実施されている体験教育事業を行い、ツーリズムに関わる人口を町内外に拡大させる。体験教育事業における体験メニューは、これまでも農業から商業や観光業といった様々な業種へと広げてきた。今後は、この体験メニューをツーリズムに限定する事無く、町内におけるボランティア活動にまで広げることにより、福祉とツーリズム双方の発展を目指す。

（３）交流拠点としての直売所設置
　確実に成長し続けている農産物直売所を、町外に設置することにより、町内農家の新しい収入源を確保するとともに、町からの情報発信基地、交流拠点としての機能を持たせることにより、都市と農山村の交流促進を図る。

６　計画期間
平成１８年度～平成２２年度

７　目標の達成状況に係る評価に関する事項
　目標達成状況の評価については、ツーリズムの推進、地域コミュニティの再生、双方について、目標に掲げた数値データをもとに、年度ごとの推移を確認

しつつ、客観的評価を行う。なお、評価を行う主体は、町とともに、この計画を進めていく団体（(財）学びやの里、ＮＰＯ杉っ子運営会、小国町ツーリズム協会）で評価委員会を設立し行う。

８　地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項
　　該当なし